

館山海上技術学校マリンセミナー開催

7月21・22日 全海運と関東船対協協賛、総連合会協力

国立館山海上技術学校の夏休み恒例のマリンセミナーが7月21日と22日の両日、全国海運組合連合会と関東地区船員対策協議会が協賛、日本内航海運組合総連合会が協力して同校で開催された。今回は中国地方海運組合連合会青年部から吉本大亀(有)新和汽船代表取締役、古中洋平井原海運(株)取締役を講師に迎え、同校生徒の保護者35名が出席し盛況だった。

この行事は、夏休み期間中に保護者達が同校に泊まりがけで参加し、練習船による海上実習を始め各種実習、座学などを体験するもの。保護者達にとって、自らが体験することで生徒との親子関係を深め合い、日頃接することの少ない保護者同士の親睦を図り、学校の教育現場を理解することが出来ると好評。このセミナーには毎年、内航海運業界から講師を迎え、保護者達の知らない内航海運の現状や船員生活・労働環境などをテーマに講演している。

初日は父兄が2グループに分かれ、同校の実習船『望洋丸』に乗船して生徒と同じ海上実習を体験する一方、学校の実習や徒歩遠足のコースを歩いて市内見学。その後、講演会に移った。



講演会では古中氏が内航海運と

講演会はゲストに榎本成男関東地区船員対策協議会会長(関東沿海海運組合理事長、榎本回漕店社長)、中島繁全海運専務理事、福島正太郎総連合会広報室課長が出席した。

講演会では古中氏が内航海運と



内航船舶の紹介に続き、船員の仕事、船内生活、職場環境や役割などについてわかりやすく説明し、吉本氏と榎本氏も加わって、内航船や船員生活や待遇などについて、保護者達と熱心な質疑応答を交わし盛り上がった。

その後、佐々木直人教頭の乾杯で始まった懇親バーベキューパーティーの会場でも保護者たちは、講師とゲストを囲んで生徒達の将来を託す内航海運と船員教育について語り合った。

校内の生徒寮に宿泊した保護者たちは翌日、カッター漕走や上架作業の実技を体験した上、学校側との懇談会で意見交換をするなど、有意義なときを過ごした。

